

# 持続可能な開発と防災の主流化

## ●国際的な開発目標

2000年 国連ミレニアム宣言  
2001年 **ミレニアム開発目標(MDGs)**

### MDGs(8つの目標)

自然災害は、長年にわたる開発の成果を押し流す大きな脅威であるが、開発目標に、防災の視点は位置づけられていない。



2015年 **持続可能な開発のための2030アジェンダ**

### 持続可能な開発目標(SDGs)の策定

アジェンダとして、強靱性(レジリエンス)の構築と災害のリスク削減にむけた取組を強化する旨明記され、開発目標においても、被災者数や直接的経済損失を大幅に減らすなど、**防災の視点が明確に位置づけられた。**



### 我が国の貢献：防災の主流化(あらゆる政策に防災の視点を導入していく)

我が国の防災技術や国土強靱化に関する知見等を活用し、事前の防災投資を推進し、各国の持続可能な開発に貢献するのみならず、日本企業の海外展開の機会を広げ、我が国の成長戦略にも貢献していく。

#### 2015年 仙台防災協カイニシアティブ

2015～18年の4年間で、40億ドルの資金協力及び4万人の人材育成を実施。2018年末に達成。

#### 2019年 仙台防災協カイニシアティブ・フェーズ2

2019～2022年の4年間で、少なくとも500万人に対する支援及び8万5千人の人材育成・防災教育を実施。  
2019～2020年の2年間で、80か国の防災計画策定・改定を支援。

## ●国際的な防災の取組指針

1994年 第1回国連防災世界会議 於:横浜  
2005年 第2回国連防災世界会議 於:兵庫

### 兵庫行動枠組の策定

自然災害への対応は、事後の人道支援・復旧に焦点が当たっていたが、同枠組は「事前対策」の重要性を示し、災害に社会を構築するための国際的な指針となる。



2015年 **第3回国連防災世界会議 於:仙台**  
(185カ国、首脳25名含む閣僚100名以上が参加)

### 仙台防災枠組2015-2030の策定

期待される成果と目標、指導原則、優先行動等を規定。  
**「防災の主流化」、事前の防災投資、「より良い復興(Build Back Better)」**等、日本が重視する点が盛り込まれた。



2015年 **「世界津波の日」の制定**



# 仙台防災枠組 2015-2030

Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030

## 構成

### 期待される成果 (Expected outcome)

人命・暮らし・健康と、人・企業・コミュニティ・国の経済的・物理的・社会的・文化的・環境的資産における災害リスク及び被害を大幅に削減する

### 目標 (Goal)

ハザードへの暴露と災害に対する脆弱性を改善し、応急対応及び復旧への備えを強化し、もって強靱化を強化する、統合されかつ非排他的な、経済・ハード・法律・社会・健康・文化・教育・環境・技術・政治・制度的な施策を通じて、新たな災害リスクを防止し、既存の災害リスクを削減する

### 優先行動 (Priorities for action)

各行動は、国・地方レベル、グローバル・地域レベルに焦点を当てる

優先行動1  
災害リスクを理解する

優先行動2  
災害リスク管理のための災害リスク・ガバナンスを強化する

優先行動3  
強靱化に向けて災害リスク削減へ投資する

優先行動4  
効果的な応急対応に向けた準備を強化するとともに「より良い復興」を行う

### ステークホルダーの役割 (Role of stakeholders)

市民社会、ボランティア、地域団体の参加  
(特に、女性、子ども・青年、障害者、高齢者)

学術界、科学研究機関との連携

企業、専門家団体、民間金融機関との連携

メディアによる広報・普及

### 国際協力とグローバル・パートナーシップ (International cooperation and global partnership)

一般考慮事項 (国際協力の際の留意事項)

実施の手段

国際機関からの支援

フォローアップ行動

### グローバル目標 (Global Targets)

- 死者数
- 被災者数
- 経済的損失
- 重要インフラ (医療、教育施設含む)
- 国家・地方戦略
- 開発途上国への支援
- 早期警戒システムと災害リスク情報へのアクセス

## 特徴

- 7つの具体的なグローバル目標が設定された。
- 防災の主流化、事前の防災投資、より良い復興、多様な主体の参画、人間中心のアプローチ、女性のリーダーシップ等、我が国が重視する点を含む。

# 仙台防災枠組 2015-2030

Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030

## 7つのグローバル目標(Global Targets)

### Input Targets

e. 国と地方における防災戦略計画の策定国数を増やす(2020年まで)

f. 本フレームワークの実施のための途上国への国際協力を強化(2030年まで)

g. 早期警戒システム及び災害リスク情報へのアクセス数を増やす(2030年まで)

達成の支援

### Outcome Targets

a. 災害による死亡率を減らす(2030年まで)

b. 災害による被災者数を減らす(2030年まで)

c. 災害による直接的な経済損失を低減させる(2030年まで)

d. 医療・教育施設などを含む重要なインフラと基礎的サービスへの災害被害を軽減する(2030年まで)



# 仙台防災協カイニシアティブ・フェーズ2

## 背景

貢献するゴール



- ◆ 2015年3月、日本は仙台にて第3回国連防災世界会議をホスト。
  - ー2030年までの国際的指針「**仙台防災枠組2015ー2030**」を共同議長国として取りまとめ。
  - ー同時に、日本自身の取組として「**仙台防災協カイニシアティブ**」を表明。  
(2015年～2018年の4年間で、**4万人の人材育成**、**40億ドルの資金協力**を実施。2018年末までに達成。)
- ◆ 2015年9月に国連にて採択された「**持続可能な開発のための2030アジェンダ**」(SDGs)にも総合的な災害リスク管理の策定と実施など防災が明確に位置付けられた。

## 防災分野における国際協力の必要性

- ◆ グローバルな防災戦略の構築等を推進し、「国連防災世界会議」の事務局として「仙台防災枠組」の実施推進や進捗モニタリングを担う**国連防災機関(UNDRR)**と連携しつつ、**国際社会における「防災の主流化」と国際社会の強靱化**に向け、**防災先進国日本**として役割を果たす必要あり。
- ◆ 国際社会において「**仙台防災枠組**」を**着実に実施**し、**SDGs実現に向けた取組を推進**する観点からも、日本自身の取組である「**仙台防災協カイニシアティブ**」の**後継**となる政策が必要。

## 仙台防災協カイニシアティブ・フェーズ2

- ◆ 途上国における災害による年間約5万人の死者<sup>※1</sup>及び1億人の被災者<sup>※1</sup>に対して、防災先進国として、**誰もが安心して暮らせる災害に強い世界の強靱化**に貢献すべく、洪水対策(例:堤防, 分水路, 排水幹線整備)等により、2019～2022年の4年間で、**少なくとも500万人に対する支援を実施**。
- ◆ 2019～2022年の4年間で、行政官や地方リーダー計4万8千人及び次世代を担う子供たち計3万7千人の**合計8万5千人の人材育成・防災教育**
- ◆ 仙台防災枠組達成に向けて、2019～2020年の2年間<sup>※2</sup>で、**80か国の防災計画策定・改定を支援**

※1: EM-DATより、ODA援助対象国を対象に試算 ※2: 仙台防災枠組ターゲットe(2020年までに、国家・地方の防災戦略を有する国家数を大幅に増やす。)の期限にあわせた。

# 世界津波の日(11月5日)

## ◆「世界津波の日」の制定

第3回国連防災世界会議(2015.3)

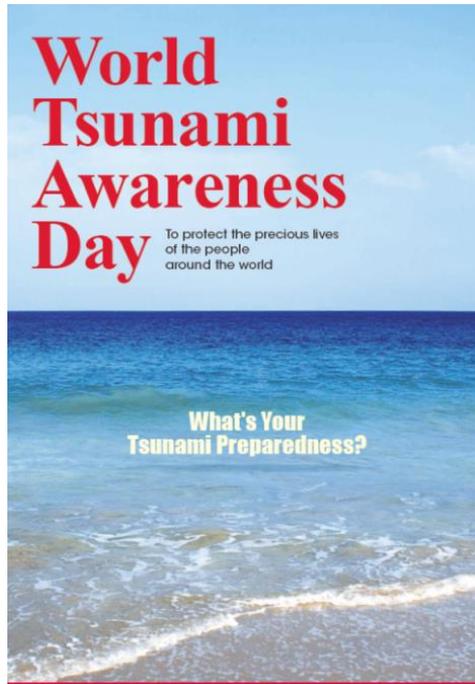


UN World Conference on  
Disaster Risk Reduction  
2015 Sendai Japan

持続可能な開発のための2030アジェンダ(2015.9)



フォローアップ



日本をはじめ142か国が共同提案した『11月5日を「世界津波の日」として制定する決議<sup>※</sup>』が、2015年12月22日、第70回国連総会本会議にて、全会一致で採択。

⇒ 世界各地において、『津波に対する意識向上のための啓発活動』や『津波対策の強化』等の取組を実施中。



第70回国連総会本会議の様子

※1854年11月5日に和歌山県で起きた大津波の際に、村人が自らの収穫した稲むらに火をつけることで早期に警報を発し、避難させたことにより村民の命を救い、被災地のより良い復興に尽力した「稲むらの火」の逸話に由来する。